

プレゼンテーション技術

現在、Javaを利用した多くのWebアプリケーション開発において、ビューの作成にJSPが利用されています。Javaは当初サーブレットという技術により、IO関連APIを使用してHTMLを出力するというものでありました。ところがこの方法では、複雑な画面を構築するには可読性が悪く、コード品質に問題が生じやすかった。

その改善策としてJSPが誕生しましたが、HTMLにビジネスロジックを追加するという開発方法であった為、ASP(Active Server Page)と大きな差が無く、それほど普及しませんでした。その後、サーブレット/JSPという2つの技術を同時に使用した開発方法が生まれ、ASPでもできなかったHTMLとビジネスロジックを分離することができるようになりました。この開発方法により、HTML部をデザイナー、ビジネスロジック部をJavaプログラマというような分業の考え方が生まれてきました。

Webアプリケーション開発におけるプレゼンテーション技術は、現在2つの大きな流れの中で解を模索中の状態です。1つは前述したHTMLをベースとした流れ、そしてもう一つはリッチクライアントと呼ばれるクライアントで動作するプログラムにて表現する流れに分けられます。どちらにも特徴があり、これからもビジネスシーンによって使い分け、共存していくと予想されます。

これらプレゼンテーション技術が発展してきた背景にはアーキテクチャパターンであるMVCモデルにあります。Jakarta Strutsのように、MVCモデルを実現するフレームワークが出現することで急速に普及してきています。ビュー(プレゼンテーション部分)の部分が明確に分けられたことにより、開発範囲が明確化することで管理がし易くなったことも進化してきた理由の一つです。

